

第54回言友会全国大会
吃音ワークショップ2020 on the Web
10月11日（日）9:15～10:45
講演会①

吃音のある人への支援、 当事者による支援、 専門家による支援

金沢大学・石川言友会 小林 宏明



石川言友会会員

大学教員（金沢大学）



私の吃音の捉え方

吃音は、
悪いこと、
いけないこと、
ダメなこと、
ではない

支援の目的は、
吃音の消失でなく、
吃音の困り感の緩和・軽減

支援の目標は、
吃音のある人一人ひとり
異なる

心技体 + 環

心技体 + 環

「吃音は悪いこと、いけないことではない」

モラル（morale） 楽に話す発話技術

吃音の知識を持つ どもった時の気持ちの対処法

カミングアウト 発話力、コミュニケーションアップ

特技・長所を活かす 精神力アップ

.....

吃音に受容的な雰囲気

吃音への配慮がある

相談、治療、教育の場の提供

法や制度による保護、保障

互助や共助の枠組（SHGなど）

.....

人により、合う方法、合わない方法がある

→選択肢は、たくさんあった方がよい

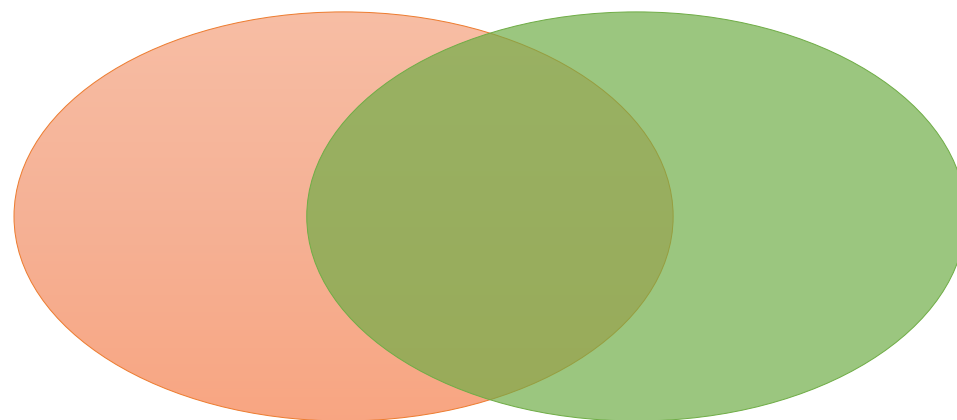
人により、合う方法、合わない方法がある

→1つの方法に絞るのではなく、複数の方法を組み合わせる方がよい

当事者による支援
専門家による支援

当事者ができる支援

専門家ができる支援



わかちあい、
ひとりだち、
ときはなち

体験的知識の
組織的集積

支援者
治療原理

プロシューマー
としての支援



セルフヘルプ・グループ（SHG）ならではの支援

（ちょっと申し上げにくいですが…）

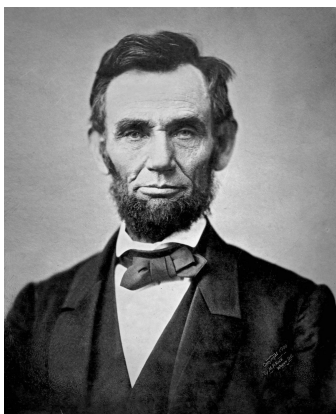
**セルフグループの支援が
合わない人もいます…**

**専門家と競合するのではなく、
お互いに補完し合う
→当事者が得意な支援は何か
を意識する**

**専門家と競合するのではなく、
お互いに補完し合う
→専門家が得意な支援は何か
を意識する**

当事者でないとできない
唯一無二の支援
→メンター

吃音のある中高生・青年のための、
吃音のある人による、
メンター養成プログラム



Wikipediaより

government of the people,

by the people,

for the people

人民の

人民による

人民のための政治

科学研究費補助金研究

- 吃音のある中高生・青年のための吃音のある人によるメンター養成プログラムの開発
 - 挑戦的基盤研究（課題番号 15K13248）
 - 研究代表者 小林宏明（金沢大学）
 - 研究分担者 坂田善政（国リハ学院）
 - <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-15K13248/>

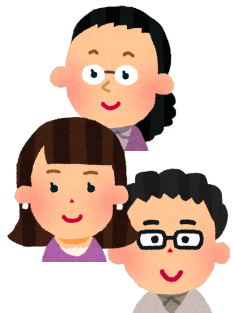
1.メンターとは？

2.メンタープログラムの構成



メンターとは

- メンター（mentor）とは**信頼のおける相談相手**という意味です
- 先輩の当事者が後輩の当事者の話を聞いたり、情報提供を行ったりする活動を行います
- 当事者は専門家でないので、自分の体験にない相談や難しい相談は受けることはできません。しかし、**同じ当事者だからこそできる相談**もあります。



メンターの活動

- ① **経験から得た知識**を相談者に伝えることができる。
- ② 同じ吃音のある者として**共感**でき、**寄り添う**ことができる。
- ③ 地域の支援のつながりから得られた信頼できる支援者の情報、ホームページや広報にない「**口コミ情報**」を相談者に伝えることができる。
- ④ 様々な**当事者の経験を話す**ことで、将来の見通しが見えやすくなるのを助けることができる。

発達障害におけるペアレントメンター

- 2005年 日本自閉症協会ではペアレントメンター養成研究を開始
- 現在では、各都道府県の発達障害者支援センターなどが中心となり、日本全国でペアレントメンターの要請が行われている。

メンターの活動の形

●相談活動

- ①個人相談
- ②グループ相談
- ③電話相談

●研修・啓発活動

- ①サポートブック研修
- ②学校などでの啓発活動

メンタープログラムの構成

- ・吃音の基礎知識
- ・リソースブック作り
- ・相談の基礎知識
- ・傾聴相談ロールプレイ

リソースブックとは

地域の保健、医療、教育、福祉、セルフヘルプ・グループなどの
情報をまとめた「手作りの地域資源のガイドブック」

① 都道府県や区市町村、病院や学校等が作成している冊子、パンフレット、ホームページから、相談に役立つ情報を収集する

② 実際に使用した施設やサービスの実際に使用してみたの「クチコミ情報」を追加する

③ 可能な範囲で、施設の担当者などに連絡し、お互いに協力・連携できる体制の構築を目指す

相談活動の基本的ルール

守秘義務を守る

相談の記録を
取る

相談を引き受け
る際のルール作
りをする

相談の技術

（適切な対人的距離） 相談者との距離や椅子などの配置（正面から向き合うか、斜め90度で向かい合うかなど）

（傾聴的態度） 相談者の話を傾聴する際に、「うなづき」、「相づち」などで話に耳を傾けていることを知らせる

（受容と共感） 「繰り返し技法」などを活用したり、相談者が語ることを大切にしたりしながら、受容と共感を伴った関わりをする。

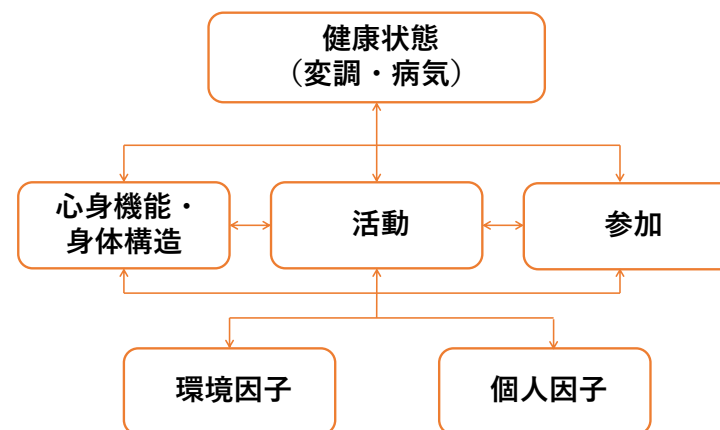
（質問の技術） 答えが限定される「クローズド質問」と答えが限定されない「オープン質問」をうまく使い分ける。

（応答の技術） 相談者の質問に全て答えようとせずに、専門機関を紹介する、「個人的な体験」であることを断ってから自身の体験を話す、相談者の良いところに目が向くように働きかける、課題の整理と再設定をする（相談者が問題と感じていること以外で取り組めるものを見つける）などをします。

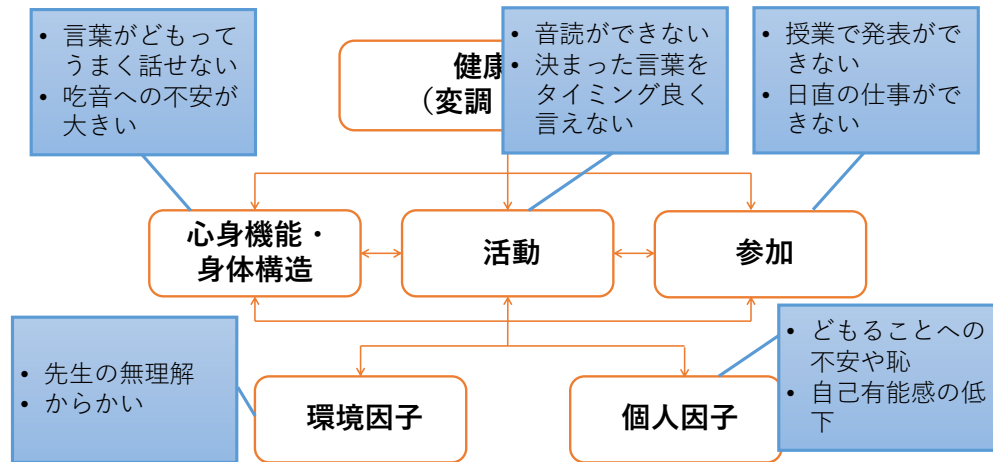
- 支援の動向
 - 国際生活機能分類
 - 多面的・包括的アプローチ
- 言語面へのアプローチ
- 心理面へのアプローチ
- 環境面へのアプローチ
 - グループ指導
 - 福祉・労働

専門家による支援 ～最近の動向～

国際生活機能分類(ICF) (WHO, 2001; Yarussら, 2004)



国際生活機能分類(ICF) (WHO, 2001; Yarussら, 2004)



言語面

- **統合的アプローチ** (Guitar, 2019; Langevin, 2010; Boberg, 1994 など)
 - 流暢性形成法と吃音緩和法を組み合わせたアプローチで、それを組み合わせる順序や程度は様々 (坂田, 2012)
- **リックムプログラム** (Lincolnら, 1996; Koushikら, 2009)
 - 流暢発話と吃音への言語随伴刺激を用いるホームプログラム
- **シラブルタイムドスピーチ** (Anderwら, 2012, 2016)
 - 一音一音を一定のリズムに合わせて発声する

多面的包括的アプローチ

- 吃音の言語症状、吃音に対する認識や感情、子どもを取り巻く環境などの様々な要因を取り扱う (小林, 2011)
- (例) **CALMS モデル** (ヒーリー, 川合訳, 2019)
 - C**ognitive知識・認識
 - M**otor口腔運動能力
 - A**ffective心理・感情
 - S**ocial社会性・社交性
 - L**inguistic言語

心理面

- **吃音への態度と感情の支援** (スコットら, 中村ら訳, 2015)
 - 子どもと吃音について話し合う基本姿勢、アセスメント、指導の手立てを具体的に説明
- **流暢性を超えて 吃音の社会・感情・認知への対処** (Amsterら, 2018)
 - 認知行動療法 (CBT)、アクセプタンス・コミットメント・セラピー (ACT)、体験療法 (Experimental Therapy)、吃音のための回避軽減療法 (ARTS®)、ピアサポートなどを紹介

環境面（1）

- **吃音の子どもへのいじめの最小化**（Murphyら, 2013）
 - 言語聴覚士が行える6つのステップ（子どもに吃音やいじめについて教える、子どもにからかいへの対応方法を教える、子どもが友達に吃音を説明するのを助ける、両親や教師に吃音やいじめについて教える など）を説明

グループ指導（1）

- **吃音のグループ指導**（瀧田, 2019; 村瀬ら, 2019）
 - 吃音の学習、吃音についての語り合い・話し合い、発話・コミュニケーションの練習、仲間との親睦などを実施。
 - ゲストティーチャー（吃音のある先輩など）との交流会、お楽しみ会（司会、発表の体験など）などのイベントの開催。
 - 定期的に実施することで、「チーム」としての連帯感を醸成。

環境面（2）

- **在籍学級での吃音啓発授業**（牛久保, 2019; 伊藤, 2019; 内藤ら, 2019）
 - 道徳や学活の時間に実施
 - 吃音の知識、吃音のある子どもとの接し方について、クイズや話し合いの時間などを設けながら実施
 - 必要に応じ、吃音のある子ども本人が話す時間を設ける

グループ指導（2）

- 全国各地で「**吃音のある子どものつどい**」を開催
 - 当事者団体と専門家がOne Teamで企画・運営
 - 子ども、保護者、当事者全てがwin-win-winの関係

福祉・労働

- **就労・婚活支援**（竹内ら, 2017; 飯村, 2019）
 - 「どーもわーく」の取り組み
 - 吃音のある人の就職に関するガイド
- **障害者手帳**（岡部, 2020）
 - 身体障害者手帳、精神障害者手帳
- **英語試験での合理的配慮**
 - 英検、GTEC

参考文献（2）

- Andrews, C., O'Brian, S., Harrison, E., Onslow, M., Packman, A., & Menzies R. (2012) Syllable-timed speech treatment for school-age children who stutter: a phase I trial. *Language Speech and Hearing Services in Schools*, 43, pp. 359-369.
- Andrews, C., O'Brian, S., Onslow, M., Packman, A., Menzies, R., & Lowe R. (2016) Phase II trial of a syllable-timed speech treatment for school-age children who stutter. *Journal of Fluency Disorders*, 48, pp. 44-55.
- Boberg, E. & Kully, D. (1994) Long-term results of an intensive treatment program for adults and adolescents who stutter. *Journal of Speech and Hearing Research*, 37, pp.1050-1059.
- Guitar, B. (2019) *Stuttering: An Integrated Approach to Its Nature and Treatment*. 4th edition. Lippincott Williams & Wilkins.
- ヒーリー, E. チャールズ (著), 川合紀宗 (訳) (2019) CALMS:吃音のある学齢期の子どものための評価尺度. 学苑社.
- 飯村大智 (2019) 吃音と就職：先輩から学ぶ上手に働くコツ. 学苑社.
- 伊藤正樹 (2019) 小学校の授業において吃音をどう扱うか?. きつおん臨床セミナー2019 学校と吃音配布資料. 特定非営利活動法人きつおんサポートネットワーク.
- 小林宏明 (2014) 学齢期吃音の指導・支援 ICFに基づいたアセスメントプログラム. 改訂版. 学苑社.
- Koushik, S., Shenker, R., & Onslow, M. (2009) Follow-up of 6-10 year-old stuttering children after Lidcombe Program treatment: A Phase I trial. *Journal of Fluency Disorders*, 34, pp. 279-290.

参考文献（1）

- 古木源之助(1909)柔術独習書. 制剛堂.
- 久保鉦章(1998)“セルフヘルプ・グループとは何か”. セルフヘルプ・グループの理論と展開－わが国の実践を踏まえて－. 久保鉦章・石川到覚(編). 中央法規出版, pp.2-20.
- 三島一郎(1998) “セルフヘルプ・グループの機能と役割”. セルフヘルプ・グループの理論と展開－わが国の実践を踏まえて－. 久保鉦章・石川到覚(編). 中央法規出版, pp.39-56.
- 岡知史(1999)セルフヘルプ・グループ わかちあい・ひとりだち・ときはなち. 星和書店.
- 岡知史・Borkman, T. (2000)セルフヘルプ・グループの歴史・概念・理論－国際的な比較から. 作業療法ジャーナル, 34, 718-722.
- Riessman, F. (1965)The “helper” therapy principle. *Social Work*, 10, 27-32.
- (21) Riessman, F. (1990)Restructuring Help: A Human Service Paradigm for the 1990's. *American Journal of Community Psychology*, 18, 221-230.
- 井上雅彦・吉川徹・日誌正文・加藤香(編著)(2011a)ペアレント・メンター入門講座 発達障害の子どもをもつ親が行う親支援. 学苑社.
- 井上雅彦・吉川徹・加藤香(編著)(2014)ペアレント・メンター活動ハンドブック. 学苑社.
- Amster, B, J. & Klein, E. R. (2018) More than fluency. The social, emotional, and cognitive dimensions of stuttering. Plural Publishing.

参考文献（3）

- Lincoln, M., Onslow, M., Lewis, C., & Wilson, L. (1996). A clinical trial of an operant treatment for school-age children who stutter. *American Journal of Speech-Language Pathology*, 5, pp. 73-85.
- Logan, K. J. (2005) Improving communicative functioning with school-age children who stutter. In R. Lees & C. Stark(Eds.), *The treatment of stuttering in the young school-aged child*. Whurr, pp. 108—139.
- 村瀬忍・築山道代・篠原美喜・板倉寿明・牧野泰美 (2019) 言語障害通級指導教室における吃音の指導 グループ指導に着目して. 日本特殊教育学会第57会大会抄録集, 自主シンポジウム4-13.
- Murphy, W. P., Quesal, R. W., Reardon-Reeves, N. & Yaruss, J. S. (2013). *Minimizing Bullying for Children Who Stutter*. Stuttering Therapy Resources.
- 内藤麻子・餅田亜希子・堅田利明 (2019) 通常学級で行う「吃音授業」の取り組み. 第7回日本吃音・流暢性障害学会プログラム・抄録集, p. 65.
- Ranyan, C. M. & Ranyan, A. E. (1993) Therapy for school-age stutterers. An update on the fluency rules program. In R. F. Curlee (ed.) *Stuttering and related disorders of fluency*. Thieme Medical Publishers, pp.101-114.
- 坂田善政 (2012) 成人吃音例に対する直説法. 第56回日本音声言語医学会シンポジウム: 吃音の治療. 音声言語医学, 53, pp. 281-287.
- スコット, リサ(編), クメラ, クリスティン A. ・リアドン, ニーナ (著), 長澤泰子 (監訳), 中村勝則・坂田善政 (訳) 吃音のある学齢児のためのワークブック 態度と感情への支援. 学苑社.

参考文献（4）

- ・ 障害者福祉研究会（2002）ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版．中央法規出版．
- ・ 瀧田智子（2019）「ことばの教室」における吃音児のグループ指導について．日本吃音・流暢性障害学会第7会大会ポストコンgressセミナー学齢期吃音の指導・支援資料集，2-16．
- ・ 牛久保京子（2019）在籍学校（学級）の環境調整 通級指導教室担当者として．日本吃音・流暢性障害学会第7会大会ポストコンgressセミナー学齢期吃音の指導・支援資料集，31-36．
- ・ Yaruss, J. S. & Quesal, R. W. (2004) Stuttering and the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) : An update. Journal of Communication Disorders, 37, pp. 35-52.
- ・ 岡部健一（2020）障害者手帳、障害者年金、吃音のある人を支援する会in石川（講演）2020年10月10日開催．石川言友会、NPO法人全国言友会連絡協議会．

吃音のある人のための、吃音のある人によるメンター講座

- ・ 小林宏明（2018）吃音のある人のための、吃音のある人によるメンター講座．JSPS科研費報告書．
- ・ 吃音ポータルサイトよりダウンロードできます．



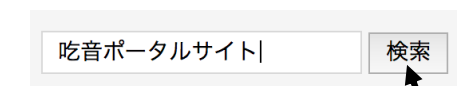
小林宏明（2019）イラストでわかる子どもの吃音サポートガイド—人ひとりのニーズに対応する環境調整と合理的配慮．合同出版．



ご清聴、ありがとうございました

ご質問・ご意見は
kobah@kitsuon-portal.jp まで

さらに詳しい情報は
<http://www.kitsuon-portal.jp/>



「いらすとや」のイラストを使用させていただきました。
<https://www.irasutoya.com/>